論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　　第　　号

氏　　名　　池田　賢司

論　文　題　目

文章理解におけるメタ理解の正確さに関する研究

論文審査担当者

主　査　名古屋大学大学院環境学研究科准教授　北神慎司

副　査　名古屋大学大学院環境学研究科教授　川口　潤

副　査　名古屋大学大学院環境学研究科教授　唐沢　穣

副　査　名古屋大学大学院環境学研究科准教授　鈴木敦命

論文審査の結果の要旨

本論文は、人間が文章を理解する際のメタ理解と呼ばれる認知過程を扱った研究である。メタ理解の上位概念であるメタ認知とは、自分自身の学習状況をモニターする過程（メタ認知的モニタリング）と、モニターした結果をもとに学習を制御していく過程（メタ認知的コントロール）という二つの過程から成る。そして、メタ理解とは、文章の理解という文脈において、メタ認知の中でも前者のメタ認知的モニタリングを意味する。これまで、メタ理解が正確であれば、効率的な学習が実現できることが指摘されてきた。しかしながら、それと同時に、メタ理解はあまり正確ではないことも指摘されている。そのため、メタ理解の正確さにかかわる要因を明らかにし、得られた知見に基づいてメタ理解の正確さを向上させるための介入方法の可能性を探ることは意義があると考えられる。そこで、本論文では、主観的難易度と読解中の注意制御過程、および、理解評定過程に焦点を当てることによって、文章理解におけるメタ理解過程の検討を行った。

第１章、２章では、メタ理解研究の意義を明確にしたうえで、文献展望によって、主観的難易度が読解中の注意制御過程に影響し、さらにメタ理解の正確さに影響するという過程について議論した。第３章から５章では、５つの心理実験によってメタ理解の正確さに影響を及ぼす要因について検討した。第３章では、読解中の文章の処理過程と利用手がかりについて検討した結果、読解中の処理過程が理解手がかりの有効性に影響することが示された。第４章では、人間の認知能力と深い関連があるとされるワーキングメモリと文章の難易度について検討を行ったところ、両者はメタ理解の正確さに交互作用的影響を与えることが示された。第５章では、主観的難易度が、読解中の注意制御過程を規定することで、メタ理解の正確さに影響するという関係性が明らかとなった。続く第６章では、より包括的なメタ理解過程を議論するため、理解評定過程について、２つの心理実験によって読者の有する信念とメタ理解の関係性に焦点を当て検討したところ、実際の読解経験にはもとづかない読者の有する信念が理解評定を行う際の初期値の設定に影響を与えていることが示唆された。さらに第７章では、以上の知見をまとめるとともに、メタ理解への介入の可能性や、本論文の限界と展望について議論した。

本研究は以下の点が評価できる。第一に、文章理解におけるメタ理解の正確さにかかわる要因を、精緻な心理実験を積み重ねることによって明らかにしたこと、第二に、それらの知見に基づいてメタ理解への介入方法の可能性を示したことである。これらの点は、認知心理学分野あるいは教育心理学分野の今後の研究にとって有益な示唆を与えるものと考えられる。審査委員からは、提案されたメタ理解過程のモデルの妥当性に関するいくつかの質問がなされたが、それらは根本的な問題点というより今後の重要な研究課題であるとの議論がなされた。

以上のように、本研究はメタ理解の正確さに関わる要因を実験的手法によって明らかにし、介入への示唆を与えたという点で心理学の発展に大きく貢献した。よって本論文の提出者池田賢司君は博士（心理学）の学位を授与される資格があるものと判定した。